



北陵ニュースレター



第12号

令和7年6月1日(日)発行
題字：齋藤 理彩子（高68回）
発行：宮城県仙台第二高等学校
同窓会

「あいさつ」

同窓会会長 佐藤 一郎（高17回）

今年の春、桜花の開花は昨年よりも一週間ほど遅れ、今日（4月14日）、やっと、太陽もときおり差し込み、満開を迎えました。「法法華経」と発声練習中の鶯の囀りがしきりに聞こえてきます。毎年のことではありますが、仙台二高講堂にて、2月28日同窓会入会式、3月1日卒業式、4月8日入学式とつづきました。年間行事の節目であり、簡潔でありながら、厳粛に行われました。

昨年暮れに、千田耕一副会長（高23回）が急にお亡くなり、12月21日に通夜、翌日告別式が行われました。八面六臂の活躍で、精力的に同窓会活動に尽力していただきました。哀悼の意を表し、謹んで冥福を祈ります。

正月明けて、同窓会新年懇親会（兼高75回二十歳を祝う会）が、1月11日（土）に、江陽グランドホテルにて開催され、255名の参加申し込み者がありました。実際、参加者は300名を超えていたように聞きました。まず、『CIVIC PRIDE』と題して、上條努（高24回、在東京同窓会会長）が熱弁をふるいました。「地域への誇りと愛着を持ち、自分自身が地域の構成員であると自覚し、さらに地域を良い場所にしていこうとする「意志」がこめられている」と。次に、塩入未央（高69回）の司会で、秩父英里（高63回）、伊澤優花（高64回）の三人で「夢を実現するために必要なこと」と題してトークショーが行われました。いずれの方も、ピンチをむしろチャンスと考えて、前向きに生きることの重要性を語っておりました。

宮城県庁仙台二高養賢会は、武者光明会長（高35回）のもと、会員総数229名を数え、総会（1月30日）には30名ほどが集まりました。高橋賢仙台二高校長との同級生も多く、和気藹々と進行いたしました。いずれにせよ、仙台市役所北陵会220名の会員を合わせると、市役所、県庁に働く仙台二高OB・OGは、450名ほどであり、これら多数の人々が、県政、市政を本当の意味で支えていると思いました。

〈2025年度 事業計画〉

同窓会公式行事

日 時	行 事	会 場
4/ 8（火）	入学式	二高講堂
4/25（金）	大運動会（活動助成）	二高校庭
5/ 1（木）	創立記念 講演会	二高講堂
5/10（土）	硬式野球定期戦	楽天モバイルパーク宮城
5/18（日）	対一高同窓会ゴルフ対抗戦	富谷カントリークラブ
5/31（土）	定例評議員会	江陽グランドホテル
6/ 1（日）	ニュースレター第12号発刊	
6/26（木）	当番回期打ち合わせ会 （高36・37・48・49・60・61）	二高会議室
7/ 5（土）	校内ツアー	二高
7/ 5（土）	同窓会総会・講演会・懇親会	江陽グランドホテル
8/30（土）～31（日）	北陵祭（同窓会ブース開設予定）	二高
12/ 1（月）	同窓会報第58号発刊	
12/23（火）	当番回期・新年懇親会打ち合わせ会 （高37・38・49・50・61・62）	二高会議室
1/10（土）	同窓会新年懇親会 （高76回二十歳を祝う会） （クラブ活動後援会への寄付）	江陽グランドホテル
2/27（金）	同窓会入会式	二高講堂
3/ 1（日）	78回卒業式	二高講堂

＊原則として、第3水曜日に開催（12回）												
4/16	5/7	6/25	7/15	8/20	9/17	10/15	11/19	12/17	1/21	2/18	3/18	

○令和6年度同窓会入会式

2025年2月28日午前、同窓会入会式が行われました。

三年生全員が講堂に集合、全員着席しました。佐藤一郎同窓会会長より開会の挨拶があり、続いて卒業記念品が贈呈されました。小野寺同窓会副会長より、同窓会活動について丁寧に説明いたしました。

その後、佐藤会長より評議員と常任委員に委嘱状を手渡し、評議員代表から、これからの同窓会会員として積極的な活動に関わっていききたいとの、決意表明がありました。

壇上では、同窓会回期の旗が披露されました。整列した評議員と常任委員に対して、大きな激励の拍手が送られました。
(高17回 佐藤裕洋)

○令和6年度第77回卒業式

2025年3月1日、暖かな春の日差しの中、高77回生315名の卒業式が挙行されました。卒業式には多田徳広PTA会長や佐藤一郎同窓会会長をはじめとする数多くのご来賓の方々や多くの保護者の方々が参列されました。

参列者の見守る中、スーツ姿や晴れ着、ドレス姿など華やかな服装に身を包んだ卒業生たちが入場し卒業式が始まりました。開式の辞、国歌斉唱の後、卒業生がクラス毎に一人一人呼名され、クラス代表に卒業証書が授与されました。担任の先生の名前の呼びかけに元気よく返事をする卒業生の顔は高校3年間の学校生活を経て凛々しい顔つきになっていました。

その後、高橋賢校長から同窓会や保護者の皆様への感謝の言葉と「これからもどんな時でも、純粋に「学ぶ心」を持って人生を歩んでほしい」という、式辞が述べられました。

佐藤一郎会長からは、卒業生と保護者の皆様へ感謝とともに「国際社会の中で世界各国の皆様から尊敬されるような日本人として生きてほしい」との祝辞が述べられました。

それに引き続いて在校生代表、卒業生代表の挨拶、校歌の斉唱の後、閉式の辞をもって卒業式は滞りなく終了しました。

卒業式が終了した後、卒業生の退場前に保護者代表から学校側への感謝の言葉とお世話になった教職員の皆様へ、卒業生から花束と記念品の贈呈が行われました。卒業生から花束を受け取っていた教職員の皆さんの嬉しくもあり寂しそうな表情が印象的でした。

卒業生退場の前、最後に応援団長が壇上に立ち、卒業生とともに学校へのエールと「雨か嵐か」を送るというサプライズが行われ、卒業生は別れを惜しみながらもどこか晴れ晴れとした表情で会場を後にしました。

(高44回 齋藤雅樹)

○令和7年度入学式

2025年4月8日校内の桜が咲く中令和7年度入学式が執り行われました。本年度の栄えある入学を許可された新入生は男子180名、女子140名、合計320名となりました。

多くの保護者が見守る中、新入生は吹奏楽部の演奏に合わせて期待に胸を膨らませ緊張感を漂わせながら入場しました。開式の辞により式が始まり国歌斉唱、各クラス担任により新入生の呼名が行われました。早坂重行校長は式辞で「仙台二高の教育目標である共に敬愛切磋をおこたらず文武一道を精神的支柱として学びを深めてほしい。今後変化の激しい時代、予測不能な社会が待ち受けている。これらの課題を解決するために、リーダーとして果たす役割は大きいと考える。本校での学びを糧にして日本、世界のリーダーとして身近な社会、国際社会に貢献してもらいたい。」とメッセージを送りました。

佐藤一郎同窓会会長の祝辞では「純粋無垢な、なにものにも穢されていない白鳥のような新入生のみなさん、三年間、本来の真の自己探求に励み、心の奥深くにある自分自身、自己に限りない信頼を寄せ、その秘めたる小さな種子を丁寧に育んでください。一人ひとりの文武一道を試行錯誤しながら開拓してください」と祝辞をいただきました。さらに多田徳広PTA会長より励ましのお言葉をいただきました。

最後に登壇した合唱部による校歌斉唱が行われ入学式が終了しました。
(高23回 小野寺満明)

<全国大会出場>

●フェンシング部…第32回JOCジュニアオリンピック・カップ・フェンシング大会出場

本田 英理（3年） 瀧井 陽彩（3年）
谷川 慈武（2年）

○当番回期の決意

7月の総会に向けて準備を進めております。多くの同窓生の皆様にご参加いただき、盛会となるように尽力して参ります。今年1月の新年懇親会には多くの皆様にご参加いただきました。高75の二十歳を祝う会も盛大に行うことができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。これからも、7月の総会・1月の新年会に多くの同窓生の皆様にご参加されることを祈念しております。

高36回 首藤雅浩

○訂正・追加等

会報57号に下記の記載誤りがありました。訂正するとともにお詫び申し上げます。

- ・会報23ページ R5年3月合格者 東北工業大 誤 696(360) → 正 2
- ・会報34ページ 書道部 誤 後藤嘉香 → 正 後藤嘉花

○評議員推薦のお願い

評議員会は、同窓会の運営等に関して同窓生のご意見を反映させる最終審議機関で、各回期で二名の評議員により構成されていますが、現在、下記の回期では二名の評議員が選出されていない状況です。評議員の選出については、その回期の常任委員からの互選が原則ですが、複数の同回期生からの推薦があれば常任委員でなくても構わない取扱いとしています。同窓会としては、各回期や各世代の同窓生のご意見を同窓会運営に活かしていきたいと考えておりますので、同窓会活動の運営等に興味がある方は、評議員としてのご就任と評議員会へのご参加をぜひご検討いただき、評議員への就任の自薦や、また他薦がございましたら事務局へご相談ください。

※二名未満の回期：中44～中47、高1～高4、高7、高8、高12、高15、高30、高31、高38、高39、高45～高47、高49～高55、高57～高62、高66、高70

※現在の各回期の評議員の就任状況は下記QRコードからHP（同窓会報39P）をご参照ください



○在校生の窓 陸上部 ～全国の頂点を目指して～

私は1人で速くなったのではない。

周りの力が私を成長させた。

昨シーズン、私は多くの人に宣言していた「宮城県総体優勝」を成し遂げることができた。達成した喜びは爆発し、涙を流した。

そんな過去を振り返ろうと思う。

昨シーズンはインターハイ準決勝進出・国民スポーツ大会（国体）準決勝進出・ジュニアオリンピック出場という結果で終えることができた。

これらの結果に至るまでに、周囲の力が必要であった。

その一例として、私の種目、短距離は個人の緻密な動き・能力の向上が問われる。

そのため、練習の中での思考力・創造力が重視され、それらの発達には知識を必要とする。

その知識を得るために意識したのが「聞く力」

多くの指導者・仲間におつかり、知識を得たことが私の能力を向上させた。

勉強と同じく、運動も考えなければ向上しない。

二高生にはその頭脳を最大限使い、思考しながら部活動に取り組んで欲しいと考える。

また同窓生の方々に協力をいただいたことも、大きな力になった。

沢山の方に感謝の意を忘れず、今年も走り抜けたと思う。全国トップを目指して…

（部長3年 玉木大誠）